

「日々の理科」(第 2936 号) 2022, -8, 21

「スズメバチとの対決 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

強力な薬剤は入手できたが、夜間に巣から 3~4m の距離に近づくのはかなり怖い。「どこから、どうやって噴射するか」が問題だ。私は一つのアイデアを思いついた。



裏庭には自動車も入れる。夜間に車でそっと近づき、窓を少し開けたあとエンジンを切り、その窓の間隙から一気に噴射するという作戦だ。私は明るいうちに、車で近づいて「リハーサル」までしておいた。この距離でも「偵察バチ」が飛んで来るが、自動車の中なら間違いなく安全だ。私はその晩に「作戦を実行」した。



この緊急時にも「日々の理科根性」で記録をとるために、軒下のネットワークカメラ(暗視機能あり)で一部始終を撮影しておいた。これが「噴射前」の巣の様子。ハチは巣の表面にたくさん張り付いている。



これが「噴射中」の様子。薬剤で少し白く煙ってはいるが、思ったよりも届いていないようだ。



「噴射直後」ハチはパニックを起こし、一時的に巣の表面から姿を消した。一見、成功のように見える。



しかし、数分後にはハチが戻ってきてしまった。何匹かは駆除できたかも知れないが、これでは「巣の駆除」とは言えない。要は噴射距離が足りなかったのだ。もっと巣に近づいて噴射する必要がある。私は「**作戦 B**」を決行することにした。